

令和 4 年 5 月 31 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11898

研究課題名(和文) 国際的な人身売買禁止運動と近代日本の買売春政策

研究課題名(英文) The International Movement against Trafficking in Women and the Modern Japanese Prostitution Regulatory Policy

研究代表者

林 葉子 (Hayashi, Yoko)

同志社大学・人文科学研究所・助教

研究者番号：60613982

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：国際的な人身売買禁止運動と近代日本の廃娼運動の思想的影響関係について、特に大きな影響力を持ったモーリス・グレゴリー、U. G. マーフィー、救世軍の活動について、一次史料を発掘して内容を分析し、その成果を国際学会や論文等で発表した。また、ストライキ節(東雲節)の唄本に着目して調査し、解放の当事者である娼妓や芸妓が、唄を表現手段として自由廃娼運動に関与していたことを、論文中で明らかにした。

国際比較のため、ドイツ・東欧・アメリカが専門の研究者3名と共同研究を企画し、最終年度に、公開の連続講座を主催して、その内容をブックレット『性の管理』の近現代史-日本・ヨーロッパ・アメリカ-』として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代日本の公娼制度とその存廃をめぐる廃娼論争を、国際的な人身売買禁止運動の歴史の中に位置づけ、特に欧米の運動と日本とを結んだ重要な人物や諸団体について史料を発掘・分析することによって、両者の思想的影響関係について明らかにすることができた。また、その社会運動への娼妓や芸妓らの関与についても、一次史料を用いて具体的に明らかにした。

さらに、近代日本の買売春政策を『性の管理』の政策の一環と位置づけ、国際比較の共同研究を実施することによって、近代の統治権力による生政治の実態について捉え直すための新たな視座を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：Regarding the ideologically influential relationship between the international movement against trafficking in women and the modern Japanese movement against licensed prostitution, I have uncovered primary historical documents and analyzed their contents, particularly regarding the activities of Maurice Gregory, U. G. Murphy, and the Salvation Army, which were highly influential on Japanese prostitution regulatory policy, and presented my findings at an international conference and in papers. In addition, the research focused on the songbooks of Strike-bushi, and revealed in the paper that women in the licensed brothels were involved in the free cessation movement through the use of those songs.

For the purpose of international comparison, I planned joint research with researchers specializing in Germany, Eastern Europe, and the U.S., and I hosted open lectures and published the contents as a booklet entitled "The Modern History of 'Sexual Management': Japan, Europe, and America".

研究分野：近現代日本政治思想史、ジェンダー論

キーワード：性管理政策 自由廃娼 公娼制度 廃娼 モーリス・グレゴリー ユリシーズ・グラント・マーフィー
ストライキ節 売春防止法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近代日本の買売春政策は、拙著『性を管理する帝国 - 公娼制度下の「衛生」問題と廃娼運動』でも部分的に明らかにしたように、西欧諸国、とりわけイギリスの影響のもとで近代化されたという経緯がある。しかし、イギリスが公娼制度を廃止し、その帝国内のみならず国際的な人身売買禁止運動の中でリーダーシップを発揮するようになったのとは対照的に、日本では、軍隊における性病予防を最大の目的とする近代公娼制度が堅持され、それがアジアにおける植民地や占領地にも導入されて「慰安婦」制度へと展開された。

そのようなイギリスと日本の買売春政策や、その基礎となっていた政治思想の相違点は何か、また、両者の違いは、いつ、どのように生じたのかというのが、本研究課題の核心をなす「問い」である。

本研究では、その違いが生じた分岐点が、20世紀初頭から第一次世界大戦前後までの時期であるという仮説を立て、その時期の日英帝国関係史に特に注目した。当時、軍隊における性病管理や兵士の買春や性暴力は世界共通の問題であり、そうした問題に関する欧米の情報は、断片的ではあるが、日本の知識人の間でも共有されていた。にもかかわらず、帝国日本において、特に性に関わる人権問題が深刻化して解決が遅れ、被害国の人々との間で、今なお認識のギャップが広がっているのは何故か。その原因について、歴史的なアプローチによる検証を試みた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の近代公娼制度、すなわち軍隊の性病管理を最重要課題と位置づける買売春政策の特徴とその形成過程を、同時期のイギリス帝国との比較において明らかにすることである。日英両帝国の買売春政策に決定的な違いが生じるに至った原因を特定するために、特に、イギリスがヨーロッパ諸国を中心とする国際的な人身売買禁止運動においてリーダーシップをとるまでの経緯と、その点に関わる情報の日本への流入の実態、および、日英の社会運動家の思想的影響関係について調査する。

3. 研究の方法

本研究は、ヨーロッパにおいて公娼制度の廃止や人身売買禁止が大きな潮流となりつつあった20世紀前半期に、日本では公娼制度が維持され、兵士による買春や性暴力問題が深刻化した原因について検証するものである。

(1) 本研究の開始当初は、特に日英帝国間の違いが生じた原因を特定することを重視し、両者の間に形成された人身売買問題関連の社会運動の情報ネットワークについて調査することに力を入れていた。最初に、日英間の社会運動を結んだキーパーソンである英国人のモーリス・グレゴリーの活動について研究を進めた。モーリス・グレゴリーについては、主に、LSEの女性図書館(ロンドン)、ブリティッシュ・ライブラリー(ロンドン)、社会史国際研究所(アムステルダム)に所蔵されている史料を用いて調査した。

(2) (1)のグレゴリーが関与した諸団体のうち、特に万国廃娼同盟会について、同会が発行した機関誌やパンフレット類のデータを収集し、その分析を行い、情報を整理した。

(3) 日英の人身売買禁止運動を結んだ社会運動団体としては、万国廃娼同盟会と並んで最も重要な役割を果たした団体の一つとして救世軍が挙げられるが、救世軍については、主に、ロンドンの救世軍国際遺産センターに保管されている史料を用いて調査を進めた。

(4) 上記の研究を進めるうちに、イギリス帝国の本国だけでなく、その植民地であるインド(特にボンベイとコロンボ)における社会運動が日本に大きな影響を与えていたことが判明し、日本とインドの社会運動の関係について史料調査を進めた。中でも、(1)のグレゴリーが関与した雑誌『アジアの旗』(LSE所蔵)が重要であることに気づき、その内容について分析を進めた。

(5) 救世軍の研究を進めるうちに、同団体が婦人救済所を設置したことの歴史的意義の大きさに気づき、その婦人救済所をルーツとする婦人保護事業の歴史研究に着手した。特に、救世軍の山室軍平が強い影響を与えたベテスダ奉仕女母の家の婦人保護施設である「いずみ寮」と「かにた婦人の村」に焦点を当て、両施設において史料調査と聞き取り調査を行った。

(6) 救世軍の研究を進めていくうちに、職場である同志社大学人文科学研究所にて、これまで(史料寄贈者である小澤三郎氏以外には)知られていなかった自由廃娼運動の一次史料である裁判記録を発見し、その翻刻と分析を進めた。同時に、それらの自由廃娼訴訟に中心的に関わったアメリカ人宣教師・ユリシーズ・グラント・マーフィーについて調査を進め、ワシントン大学(シアトル)で入手した未刊行の自伝をもとに、シアトルと名古屋におけるマーフィーの活動の詳細について調べた。

(7) 自由廃娼運動については、特に同時期の地方新聞の調査を進め、熊本県立図書館、名古屋市鶴舞中央図書館、福岡県立図書館、沖縄県立図書館、静岡県立中央図書館、宮城県図書館、福島県立図書館、茨城県立図書館等で調査した。その新聞の調査の過程で、自由廃娼運動と関連の深い流行唄であるストライキ節(東雲節)について調査する必要性に気づき、ストライキ節等の唄本を収集して、分析を進めた。

(8) 廃娼運動の日英関係史について分析を進めていく中で、その日英関係についての理解を深めるためにも国際比較の研究対象を広げる必要があると判断し、内藤葉子氏(ドイツ思想史研究)、橋本信子氏(東欧研究)、秋林こずえ氏(アメリカ研究)の協力を得て、共同研究に着手した。2020年度から2021年度にかけて、その4名で計10回の研究会を開催し、互いの知見を共有して議論を深めた。

4. 研究成果

上記の方法によって進めた研究の成果は、下記のとおりである。

(1) モーリス・グレゴリーについては、International Federation for Research in Women's Historyの国際学会で“Maurice Gregory's Visit to Japan and Its Impact on Japanese Movement against Licensed Prostitution”と題する口頭発表を行い(2018年8月10日)、論文「モーリス・グレゴリーの来日と廃娼運動の全国組織・廓清会の発足 - イギリス・インド・中国・日本を結ぶ社会改良運動史の一断面」(『キリスト教社会問題研究』第69号、2020年12月)としてまとめて刊行した。

同論文では、グレゴリーがどのような経緯で国際的な人身売買禁止運動に取り組むことになったかを明らかにし、その彼の取り組みが、日本社会にどのように影響を与えたかを解説した。また、その人身売買禁止運動が、アジアのイギリス領におけるアヘン取引問題の解決をめざす社会運動とも連携していたことを明らかにし、人身売買禁止運動の歴史を、当時の社会改良運動のより広い文脈の中に位置づけた。

(2) 上記(1)の論文において、日本最大の廃娼運動団体である廓清会が、どのように万国廃娼同盟会に加盟するに至ったかを明らかにした。

(3) 救世軍については、山室軍平の出身地である岡山にて、公益財団法人山陽放送学術文化財団主催のシンポジウム「慈愛と福祉の先駆者たち」(2019年6月6日)で「山室軍平と廃娼運動 - 日英関係史の視点から」と題する講演を行った。同講演については、山陽新聞で、二度にわたって報じられた(2019年6月6日、同年7月27日)。またその講演録は、2020年6月、『慈愛と福祉 岡山の先駆者たち2』(公益財団法人山陽放送学術文化財団)に収録の上、刊行された。

救世軍の日英関係についての研究成果は、論文「自由廃娼運動と救世軍の日英関係」(『キリスト教社会問題研究』第68号、2019年12月)にまとめて刊行した。

救世軍の婦人保護事業の歴史的意義については、救世軍婦人寮創立70周年の記念イベントにおいて、同婦人寮にて「救世軍の初期の婦人保護の歴史とその意義」と題する講演を行った(2021年11月3日)。

(4) 日本の廃娼運動にインドの社会運動が与えた影響については、前掲拙稿「モーリス・グレゴリーの来日と廃娼運動の全国組織・廓清会の発足」および前掲拙稿「自由廃娼運動と救世軍の日英関係」において解説した。

(5) 婦人保護施設の歴史については、その研究の成果を広く一般に公開する目的で講演会を企画し、筆者(林)と、天羽道子氏、横田千代子氏、木原活信氏、レギーネ・ディート氏の講演内容をまとめたブックレット『キリスト教信仰に基づく女性支援の歴史 - かにた婦人の村の半世紀』(人文研ブックレットNo.64、同志社大学人文科学研究所、2020年2月)を刊行し、その全文をインターネット上で公開した。

婦人保護施設で長年にわたって施設利用者のケアを行ってきた天羽氏や横田氏の貴重な経験談を踏まえ、社会福祉学を専門とする木原氏と、ドイツの「母の家」のシュベスターの研究をしているディート氏からもコメントを得て、筆者が、ベテスダ奉仕女母の家の活動の社会的意義について解説した。また、婦人保護施設が根拠法としている売春防止法について、改正の必要性を指摘した。

売春防止法については、その問題点の指摘のため、共著『戦後民主主義の歴史的研究』の第10章として、「買売春問題と戦後日本の民主主義 - 売春防止法制定をめぐる国会と地方議会での議論を中心に」と題する論文を発表した(法律文化社、2021年3月)。

(6) 自由廃娼訴訟の裁判史料については、その原本を翻刻し、拙稿「小澤三郎編 U.G. マーフィー(モルフィ)関連自由廃娼運動史史料(1) - マーフィーによる最初の自由廃娼訴訟に関する史料と娼妓・佐野ふでの手紙 - 」(『キリスト教社会問題研究』第69号、2020年12月)および「小澤三郎編 U.G. マーフィー(モルフィ)関連自由廃娼運動史史料(2) - 娼妓・大熊きんの前借金をめぐる貸金請求事件 - 」(『キリスト教社会問題研究』第70号、2021年12月)で内容を詳細に紹介して、それらの裁判の歴史的意義について解説した。

(7) 自由廃娼運動が始まった当時に流行したストライキ節(東雲節)については、先行研究では、演歌師が創作し、名古屋か熊本が発祥の地であると論じられていたが、筆者は、唄本や新聞記事の分析によってそれが誤りであることに気づき、拙稿「自由廃娼運動と流行唄 - ストライキ節・東雲節を中心に」(『社会科学』第51巻3号、2021年11月)において、ストライキ節や東雲節の流行の担い手は娼妓や芸妓ら無名の女性たちであり、東京が発祥の地であったことを明らかにした。

(8) 本研究課題の中心的テーマに係る国際比較の成果として、内藤葉子氏、橋本信子氏、秋林こずえ氏と筆者との4名による連続講座「性の管理の近現代史 - 日本・ヨーロッパ・アメリカ - 」を企画・実施し、筆者は、「近代日本の公娼制度と性の管理」および「世界史のなか

の遊廓 - 戦前の日本から見た欧米の公娼制度」と題する講演を行った(2021年6月18日、同年6月25日)。同年7月2日の4名での総合討論を含む講演の記録は、ブックレット『性の管理の近現代史 - 日本・ヨーロッパ・アメリカ - 』(人文研ブックレット No.72、同志社大学人文科学研究所、2021年11月)として刊行し、インターネット上で全文を公開した。

この連続講座では、帝国と性の管理の関連を中心に論じ、キリスト教と廃娼運動の関係、近代世界における人々の移動手段の変化やメディアの進化と人身売買との関係、性の売買と人種差別との関係、前借金制度とその背景としての家父長制等、複数の検討課題をめぐって、日本、イギリス、ドイツ、東欧(主にチェコ)、アメリカ(主に米軍)の歴史について検証した。この国際比較の試みによって、日本と他国との相違や、日本に他国の制度や社会運動が与えた影響について、部分的ながらも、具体的に示すことができた。

本研究によって、20世紀初頭から1910年代前半にかけての時期においては、日本の廃娼運動家とヨーロッパ諸国を中心とする人身売買禁止運動の活動家の間に、直接的で親密な繋がりがあったことが判明し、日本においても、イギリスやアメリカの強い影響のもとで、娼妓らの「人権」についての議論が進められていたことがわかった。また、日本における婦人救済所の設置が、植民地インドにおける婦人救済運動を経験したイギリス人のリーダーシップのもとで行われたことが判明した。

そのような廃娼運動(特に自由廃業運動)の進展には、解放の当事者である娼妓や芸妓らも強い関心を持ち、彼女たちも、流行唄を表現手段として、自らの考えを社会に向けて訴えていたことが明らかになった。

他方で、廃娼を実現したイギリスと公娼制度を維持した日本との間の相違が生じた原因については、十分に特定するには至らなかった。その特定のためには、イギリスを中心とする欧米の人身売買禁止運動の思想的特徴について一層研究を深め、研究対象とする時期についても、1910年代以降、1930年代~1940年代頃までにも範囲を広げて、調査を進めていく必要があると考えられる。また今後、より多くの協力者を得て、国際比較の範囲を広げていくことも重要であり、それは、筆者の今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 林 葉子	4. 巻 51-3
2. 論文標題 自由廃業運動と流行唄 - ストライキ節・東雲節を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 31-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00028636	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 林 葉子	4. 巻 70
2. 論文標題 小澤三郎編U. G. マーフィー (モルフィ) 関連自由廃業運動史資料 (2) 娼妓・大熊きんの前借金をめぐる貸金請求事件	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 149-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00028674	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 林 葉子	4. 巻 69
2. 論文標題 モーリス・グレゴリーの来日と廃娼運動の全国組織・廓清会の発足 イギリス・インド・中国・日本を結ぶ社会改良運動史の一断面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 31-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00027833	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 林 葉子	4. 巻 69
2. 論文標題 小澤三郎編U. G. マーフィー (モルフィ) 関連自由廃業運動史資料 (1) マーフィーによる最初の自由廃業訴訟に関する史料と娼妓・佐野ふでの手紙	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 91-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00027835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林 葉子	4. 巻 68
2. 論文標題 自由廃業運動と救世軍の日英関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 35-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/pa.2019.0000000485	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件(うち招待講演 3件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 世界史のなかの遊廓 - 戦前の日本から見た欧米の公娼制度
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所・2021年度連続講座「性の管理 の近現代史 日本・ヨーロッパ・アメリカ」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 近代日本の公娼制度と 性の管理
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所・2021年度連続講座「性の管理 の近現代史 日本・ヨーロッパ・アメリカ」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 ハラスメントが生じにくい環境を作るには～性暴力とその防止活動の歴史からわかること～
3. 学会等名 人権教育啓発講演会(京都産業大学)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 ユリシーズ・グラント・マーフィーと日本 名古屋とシアトルにおける活動を中心に
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所・第2研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 山室軍平と娼婦運動 - 日英関係史の視点から
3. 学会等名 山陽放送学術文化財団・シンポジウム「慈愛と福祉の先駆者たち」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 売春防止法制定と地方議会
3. 学会等名 第294回政治思想読書会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 最も小さい者 として、共に生きる志 かにた婦人の村の思想と実践
3. 学会等名 同志社大学人文科学研究所 第94回公開講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林 葉子
2. 発表標題 性管理政策としての公娼制度とその存廃をめぐる論争
3. 学会等名 政治思想学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko HAYASHI
2. 発表標題 Maurice Gregory 's Visit to Japan and Its Impact on Japanese Movement against Licensed Prostitution
3. 学会等名 International Federation for Research in Women's History（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 林葉子、内藤葉子、橋本信子、秋林こずえ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 同志社大学人文科学研究所	5. 総ページ数 193
3. 書名 性の管理 の近現代史 - 日本・ヨーロッパ・アメリカ -	

1. 著者名 石野常久、小松原真、室田保夫、林葉子、杉山博昭、更井哲夫、井村圭壮、本間律子、黒住宗晴、阪本文雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人 山陽放送学術文化財団、吉備人出版	5. 総ページ数 325
3. 書名 慈愛と福祉 岡山の先駆者たち 2	

1. 著者名 長妻三佐雄、植村和秀、昆野伸幸、望月詩史、林葉子、他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 354
3. 書名 ハンドブック近代日本政治思想史	

1. 著者名 出原 政雄、望月 詩史、林葉子、他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 304
3. 書名 「戦後民主主義」の歴史的研究	

1. 著者名 林葉子、天羽道子、横田千代子、木原活信、レギーネ・ディート	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同志社大学人文科学研究所	5. 総ページ数 94
3. 書名 キリスト教信仰に基づく女性支援の歴史 - かにた婦人の村の半世紀 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>山陽放送学術文化財団シンポジウム「慈愛と福祉の先駆者たち」第5回 https://www.rsk.co.jp/company/senkusha/5th.html 人文研ブックレット No.64 『キリスト教信仰に基づく女性支援の歴史 かにた婦人の村の半世紀』 https://jinbun.doshisha.ac.jp/attach/page/JINBUN-PAGE-JA-4/133795/file/64.pdf 政治思想学会 研究大会 http://www.jcspt.jp/events/index.html IFRWH Conference 2018 Programme https://www.dropbox.com/s/bq2spa9b0eyqv17/IFRWH2018Final.pdf?dl=0 人文研ブックレット No.72 『性の管理の近現代史 - 日本・ヨーロッパ・アメリカ -』 https://jinbun.doshisha.ac.jp/attach/page/JINBUN-PAGE-JA-4/160500/file/72.pdf</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	内藤 葉子 (Naito Yoko)		
研究協力者	橋本 信子 (Hashimoto Nobuko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関